



# 福井市越廼地区

越廼地区未来ビジョン

**夢を描き未来につなぐ  
我がふるさと“こしの”**



越廼イメージアップ推進協議会  
越廼地区未来ビジョン策定委員会

# 基本情報

## 1 地区の概要

### ① 地区の人口および世帯数

(国勢調査)

区 分	人 口			世帯数	1世帯当 たり人員
	総 数	男	女		
昭和60年	2,309	1,136	1,173	640	3.6
平成2年	2,181	1,055	1,126	610	3.6
平成7年	2,008	987	1,021	590	3.4
平成12年	1,867	896	971	578	3.2
平成17年	1,629	758	871	556	2.9
平成22年	1,487	695	792	518	2.7
平成27年	1,252	593	659	477	2.5

### ② 地区の地勢／地形

越廼地区は、福井県海岸線の中央部北緯35度59分から36度3分、東経135度58分から136度1分に位置し、西方は、日本海に面し、東側・南側は、越前町に隣接しており、面積は15.35km<sup>2</sup>です。越知山系の急峻な山並は、日本海の波浪により侵食され、一気に日本海に迫っており、平坦地は極めて少なく、総面積の約77%が林野で占められています。気候は、福井県の中でも比較的温暖ですが、冬期間は、北西の季節風が強く、海岸線には高潮をとめない、山間地には降雪をもたらします。

### ③ 地区の経緯／歴史・史跡

越廼地区の地の発祥は古く、居倉町地積から、先史時代の縄文土器や磨製石斧、さらには、古墳時代の祝部土器が大味町地積より発掘され、横穴式居住跡の存在も伝えられています。

本地区は、古来より農耕地には恵まれてはいませんでした。江戸中期以降、水産加工等の商業を通じ、蒲生町を始め榮崎町・大味町・居倉町等に千石船が多く賑わっていました。明治維新の際は敦賀県に属し、明治22年の村制を施行した際に、大味浦・榮崎浦・蒲生浦が越廼村となりました。「越廼」の名の起こりは明らかではありませんが、当時の人々に厚く信仰されている霊山越知山の西に位置するところから、越の西を「越廼」と書き表し越廼としたと言われています。昭和27年、下岬村と越廼村が合併し新生越廼村が誕生し、平成18年、福井市等との合併により、今日の越廼地区となりました。

#### ④ 地区の特色

昭和43年5月、越廼地区全域が「越前加賀海岸国定公園」に指定され、雄大で男性的な海岸線としてクローズアップされました。昭和45年には県道敦賀・三国線の改修が完了し国道305号に昇格しました。これを機に観光産業が芽生え、交通量の増加に伴い沿線に旅館・民宿が建ち始め、夏は海水浴、冬は越前ガニや水仙など海の幸を求めて多くの観光客が訪れる観光地に発展をしています。

また、昔から水仙の栽培が盛んで、越前水仙の発祥の地として越前水仙をテーマとした観光施設や温泉施設が建設され、海と水仙を核としたまちづくりが行われてきました。

#### ⑤ 地区の産業

本地区の産業は、立地条件から漁業や水産加工業が盛んで、農業は古くから水仙の栽培が行われており、昭和初期から越前水仙出荷組合を中心に発展し、地区内農産物の主要な位置を占めています。

越前加賀海岸国定公園の指定によって観光産業へも意欲が見られ、旅館・民宿等では活魚料理を主として営まれています。

漁港は、大味・栄崎・居倉の3漁港があり、水産物の水揚げは、いか・ぶり・うに・わかめ・さざえ・あわび等があります。

#### ⑥ 地区の歳時記

##### 《春》

- |           |         |
|-----------|---------|
| 4月上旬      | ・春まつり   |
| 4月下旬～5月下旬 | ・わかめ採り  |
| 4月～10月    | ・大謀網    |
| 5月下旬      | ・さかなまつり |

##### 《夏》

- |           |       |
|-----------|-------|
| 7月上旬      | ・海開き  |
| 7月下旬～8月上旬 | ・うに採り |
| 7月下旬      | ・夏まつり |

##### 《秋》

- |       |       |
|-------|-------|
| 10月上旬 | ・秋まつり |
|-------|-------|

##### 《冬》

- |            |              |
|------------|--------------|
| 12月下旬～1月中旬 | ・水仙まつり       |
| 1月2日～4日    | ・豊漁祈願、厄祓い餅まき |
| 1月中旬       | ・左義長         |





## ⑦ 地区の課題

本地区は、これまで水産業、観光業の振興や生活環境、福祉医療の施設整備など、過疎化に対応した事業が行われてきました。

しかし、少子高齢化の波は止められず、通勤、通学、通院、消費購買が福井市中心部に大きく依存しており、就業場所が少なく経済的自主性に乏しいため、若者の流出による少子高齢化はさらに進行していくことが予想され、地域としての機能の低下が懸念されています。

生活基盤では、生活、産業道路である県道福井・四ヶ浦線の改良工事の早期完成が待たれています。また、公共交通機関である路線バスの利用者は減少していますが、高齢者や学生にとっては貴重な交通手段であるため、路線バス運行の確保は重要な課題となっています。

教育の振興では、生徒数の減少による教育環境の問題や、通学バスの継続、登下校時の安全見守り等に取り組まなければなりません。

産業の振興では、農林水産業のすべてにおいて後継者の問題が深刻で、本地区の特産である水仙栽培では、栽培技術の向上や基盤整備を推進し、担い手の育成を行わなければなりません。また、豊かな自然や海産資源と観光施設を有効に結びつけ、観光振興を推進する必要があります。

文化・生涯学習の推進では、人づくり、組織づくりなど住民自身によるまちづくり対策が遅れており、今回合併をした福井市の他地区に比べて、地域の自立に対する意識が薄いのが現状です。

このような状況の中で、今一度“越廼”を再確認し、誰もが参加しやすい場づくりとリーダーを養成し、住民の手によって「魅力ある」「誇りのもてる」地域づくりに取り組む必要があります。



## 2 地区未来ビジョンの基本方針

(前文)

先人達が築き上げてきた歴史と文化を礎に、新世紀の地域づくりの目標をここに定め、地域が一体となり総力を結集して、個性ゆたかな夢プランの実現に取り組みます。

1. 未来への夢を託す子供達は“地域の宝”です。子供達のすこやかな成長を願い、地域住民が一家族として、子供から高齢者が互いに助け合い、思いやりと愛情あふれる心を持った人づくりを目指します。
2. 豊かな自然環境は“地域の自慢”です。すべての地域住民が海と山の調和のとれた自然を守り、安心して暮らせる、美しい清潔な環境づくりを目指します。
3. 由緒ある歴史や文化は“地域の誇り”です。伝統を大切にしてい、故郷を学び、皆が誇りを持って未来に継承していく、文化のまちづくりを目指します。

# 実行プラン

## 第1節 越廼地区ハートプラン 「人づくり計画」

### 第1項 目標とすべき地区像・目標

「思いやり・愛情・活気にあふれる“越廼”」

「みんなが心豊かで、未来に夢を描ける地区を目指します」

### 第2項 現状と課題

本地区では、これまで旧越廼村の時に「気持ちよく、あいさつをかわそう」「物に感謝し、大切につかおう」などの村民指標が制定され、それに伴う村民運動や生涯学習など各種教室が実施されてきました。

しかし、社会状況や生活環境等の変化により、地域の連帯感が希薄化し、地域としての機能の低下も懸念され、人づくり・組織づくりなど、住民自身によるまちづくり体制の整備が遅れているのが現状です。

また、農林水産業や商工業など、これまで本地区を支えてきた産業の後継者不足も深刻で、少子高齢化問題と併せた何らかの対策が必要となっています。

地域の人づくりは、家庭だけでなく、地域社会の中で人とふれあうことにより自らの存在感を確かめ、才能や個性を発揮し人間性を形成していくものと考えられます。

今後は、生命を尊重する心や人を思いやる心、感動する心など豊かな感性を身に付けるとともに、自立心や協力し合う心を養い、社会生活における自らの役割や責任の自覚が持てる、自立した人づくりに取り組む必要があります。

### 第3項 主要な施策

- ① 誰もがいつでも学べる体制を推進します。
- ② 地域の学習リーダーの育成を推進します。
- ③ 地域活動の強化と支援を推進します。
- ④ 地区の産業の活性化を推進します。

- ⑤ 故郷を愛する子供の育成を推進します。
- ⑥ 地区民指標の制定を行います。

#### 第4項 具体的方策

- ① 研修会・セミナー等の実施
- ② ボランティア団体の育成
- ③ まちづくり組織の設立
- ④ 地域活動団体への助成
- ⑤ 既存組織の連携・統一化
- ⑥ 特産品（海産物、水仙等）の魅力情報発信
- ⑦ あいさつ・声掛け運動の実施
- ⑧ 地区民指標に関する標語・ポスター・作文の募集



## 第2節 越廼地区エコプラン 「環境づくり計画」

### 第1項 目標とすべき地区像・目標

「海が輝き、緑が薫る、美しい“越廼”」

「みんなが自然・環境を大切にし、潤いと安らぎのある  
地区を目指します」

### 第2項 現状と課題

近代社会の経済成長を背景に、地球温暖化が進むなど環境問題は地球規模に拡大し、人類共通の大きな課題となっています。

本地区は、日本海と越知山系の山々に囲まれた風光明媚な地域であります。平野面積は少ないものの、海からの恵みにより水産業が栄え、その幸を求めての観光業が発展してきました。しかし、その基盤となる漁港の整備、福祉や生活環境の整備を行うにあたり、平地が少ないための用地確保に、公有地造成など海を埋め立てでの施設整備が行われ、昔ながらの海岸環境が変化してきました。さらに、広大な日本海からは海岸沿一帯に大量のゴミも流れ着き、年に数回、地元民により清掃活動が行われています。



今後は、住民一人ひとりが環境問題に真剣に取り組み、先祖の時代から受け継がれてきた豊かな自然環境を大切にして、安心して暮らせる、美しく清潔な地区づくりを目指しながら、物質面での豊かさだけではない「本当の豊かさ」とは何かを問い直すことが大事なことです。

また、地区全体が越前加賀国定公園に指定されており、風光明媚な海岸線や水仙畑など地区の景観特性の保全にも取り組む必要があります。

### 第3項 主要な施策

- ① 水と緑に恵まれた環境を貴重な資源として大切にし、調和のとれた土地利用や景観形成を推進します。
- ② 環境に優しいゴミ処理や資源リサイクルシステムが充実した地区づくりを推進します。
- ③ 誰もが安全で安心して暮らせる、生活環境を推進します。

### 第4項 具体的方策

- ① 海岸線、水仙畑の保全の推進
- ② 海浜清掃の実施
- ③ 花いっぱい・緑いっぱい運動の実施
- ④ ゴミの減量化・リサイクル運動の実施
- ⑤ ゴミ等の不法投棄の禁止及び監視体制の強化
- ⑥ エコ・ISO運動の実施
- ⑦ 自転車に乗ろう運動の実施
- ⑧ 越廼の景観地百選の募集
- ⑨ 声かけ運動の実施
- ⑩ 安全運転の推進



## 第3節 越廼地区カルチャープラン 「歴史・文化計画」

### 第1項 目標とすべき地区像・目標

「風土・歴史・文化を育む “越廼”」

「みんなが故郷を愛し、伝統を守り、継承する地区を目指します」



## 第2項 現状と課題

本地区には、古来よりの海・山・里の生活文化が現在に伝えられています。しかし、今日的生活環境の変化や人口の減少など、地域の歴史・文化に対する意識が低下しているのが現状です。

このような状況の中で、神社の例祭行事である神楽等の伝統芸能は、地域住民が一体となり、若者が主体で受け継がれています。しかし、小さな自治会では、若者の減少により継承が危ぶまれているところもあります。

また、「越廼ふるさと資料館」が建設され、本地区の風土・歴史・祭り・史跡・文化について学ぶこともできます。

今後は、先人達が築き上げた財産のルーツを確かにし、地域への誇りと愛着・連帯感を形づくり、未来を担う子供達が身近に地域の文化・歴史にふれることができるよう、地域が一体となった様々な活動を通じて、地域の再発見と歴史や文化の継承と発展に取り組む必要があります。

## 第3項 主要な施策

- ① 伝統文化の保護・継承を推進します。
- ② 文化団体の育成・活動の支援を推進します。
- ③ 指導者の育成・確保を推進します。
- ④ 新しい文化に触れる機会の充実を推進します。

## 第4項 具体的方策

- ① 伝統芸能保存会の組織化
- ② 秋祭り行事等の由来調査
- ③ 民話・伝説・いわれごと集の製本、発表会
- ④ 郷土料理の講習会（親子等）
- ⑤ 文化団体への活動助成
- ⑥ “越廼”再発見ツアーの実施
- ⑦ 文化講座・講演会等の実施

